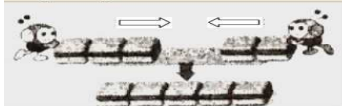
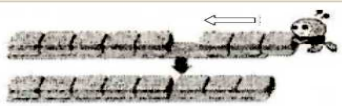
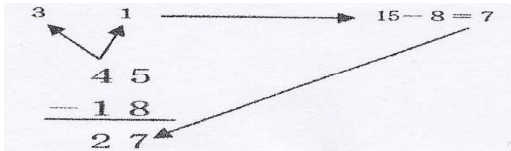


算数授業のめあてとポイント

令和6年5月号

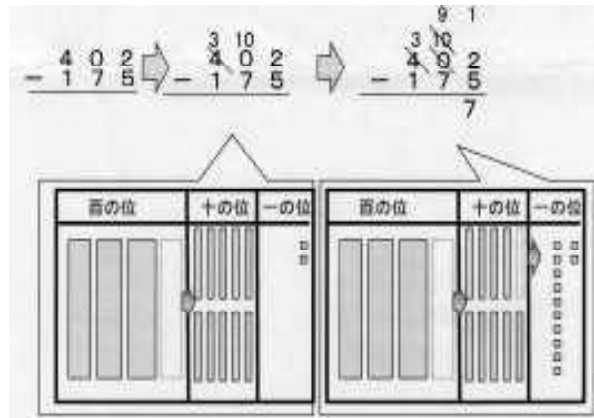
東京書籍対応

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。
(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学 年	単 元	単元のめあて と 授業のポイント
1 年	1 巻② なんばんめ	◎単元のめあて(例) なんばんめと なんにん(なんこ)の ちがいを かんがえて、はなそう。 ◎授業のポイント ・ 数学的活動を通して、順序数や集合数の違いが理解できるようにする。 ・ 「～め」がつくと、その人(物)だけを表す。
	同様単元 K5 月② G5 月③	
1 年	1 巻③ あわせていくつ ふえるといくつ	◎単元のめあて(例) あわせたり ふえたりすると いくつになるか、もとめかたを かんがえて、はなそう。 ◎授業のポイント ・ あわせる(合併)・ふえる(増加)という動きを ブロックで実際に行うことにより、その意味を 実感として捉えることができるようにする。 あわせる(合併) ふえる(増加)   3 + 2 5 + 3 どちらも数の合体 ・ 『たし算のお話 ⇄ ブロックの操作に結び付ける ⇄ 式に表す』の3点セットを大切にする。 → 1 巻①「なかまづくりとかず」の学習を生かし、補数を用いて いくつになるかを話す。
	同様単元 K6 月⑥ G5 月④	
2 年	上巻③ ひき算の ひっ算	◎単元のめあて(例) 2 けたまでの数からひく 計算のしかたを 考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・ 同じ位ごとに引くという考えから、たし算と同様に 筆算に導く。 ・ ひき算の筆算では、繰り下がり1を上に書くと 間違いが少なくなる。  ・ 15 - 8 が理解できていない場合は、1 年⑬「ひきざん」の学習に戻って 理解できるようにする。
	同様単元 K5 月⑤ G5 月⑤	
2 年	どんな 計算に～	・ 知識技能の活用力・説明力を伸ばす場面である。問題を図にかいて立式して、説明できるようにする。
	上巻④ 長さの たんい	◎単元のめあて(例) ものの長さの くらべ方・あらわし方・計算のしかたを 考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・ 長さの普遍単位は、長さをいつでも誰とでも 比べ合ったり伝え合ったりする場合に、必要になってくる。このような普遍単位の必要性が実感できる場面を工夫したい。最初のページが大事である。
	同様単元 K5 月④ G5 月⑥	

		・ 大きさの異なる任意単位を基にすると 長さが比べられないことから、単位をそろえる必要性に気付くようにする。このことが普遍単位につながっていく。そして、普遍単位で比べることを「はかる」ということを知らせる。普遍単位の必要性は、重さ・かさ・広さの学習にも使われる。 ・ はがきの横が 10 cm などの量感が、もてるようにしておく。実生活との関連を図る。 ・ はがきの縦の長さなどを、概則ではなく正しく測るとき、 「もっと小さい単位がいる。」 ↑ <u>児童に考えてほしいこと</u> → mm 補助単位の導入 ↑ <u>知らせること</u> ・ 長さのたし算ひき算の学習もしておきたい。 ・ $\begin{array}{r} 3\text{ cm } 5\text{ mm} \\ + 2\text{ cm} \\ \hline 5\text{ cm } 5\text{ mm} \end{array}$ 3 cm 7 mm のような間違いを少なくするために、 $\begin{array}{r} 3\text{ cm } 5\text{ mm} \\ + 2\text{ cm} \\ \hline 5\text{ cm } 5\text{ mm} \end{array}$ 同じ単位を線で結ぶ。															
3 年	上巻③ わり算 同様单元 K4 月② G4 月③	◎単元のめあて(例) 同じ数ずつ分ける計算のしかたを考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・ 実生活との関連を図りながら、わり算の意味には2種類あることが、操作から式まで通して理解できるようにする。 ・ 下記のように、単位名を付けた式によって わり算の意味の違いを理解し、これを受けて わり算の共通の式が理解できるようにする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="padding: 5px;">同じ数ずつ分けると 1 つ分はいくつか (等分除)</th><th style="padding: 5px;">わり算の 意味の違い</th><th style="padding: 5px;">同じ数ずつ分けると 何組に分けられるか (包含除)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 10px;"> □こ ○○○○○ □こ ○○○○○ □こ ○○○○○ </td><td style="padding: 10px;"> 具体物の操作での違い ↓ </td><td style="padding: 10px;"> 1 組 ○○○ 2 組 ○○○ ・・・ □組 ○○○ </td></tr> <tr> <td style="padding: 10px;"> </td><td style="padding: 10px;"> テープ図での違い ↓ </td><td style="padding: 10px;"> </td></tr> <tr> <td style="padding: 10px;"> $15\text{ こ} \div 3 = \square\text{ こ}$ $(\square\text{ こ} \times 3 = 15\text{ こ})$ </td><td style="padding: 10px;"> 単位名を付けた式での ↓ 違い </td><td style="padding: 10px;"> $15\text{ こ} \div 3\text{ こ} = \square$ $(3\text{ こ} \times \square = 15\text{ こ})$ </td></tr> <tr> <td style="padding: 10px;"> $15 \div 3 = 5$ </td><td style="padding: 10px;"> わり算の共通の式 </td><td style="padding: 10px;"> $15 \div 3 = 5$ </td></tr> </tbody> </table>	同じ数ずつ分けると 1 つ分はいくつか (等分除)	わり算の 意味の違い	同じ数ずつ分けると 何組に分けられるか (包含除)	□こ ○○○○○ □こ ○○○○○ □こ ○○○○○	具体物の操作での違い ↓	1 組 ○○○ 2 組 ○○○ ・・・ □組 ○○○		テープ図での違い ↓		$15\text{ こ} \div 3 = \square\text{ こ}$ $(\square\text{ こ} \times 3 = 15\text{ こ})$	単位名を付けた式での ↓ 違い	$15\text{ こ} \div 3\text{ こ} = \square$ $(3\text{ こ} \times \square = 15\text{ こ})$	$15 \div 3 = 5$	わり算の共通の式	$15 \div 3 = 5$
同じ数ずつ分けると 1 つ分はいくつか (等分除)	わり算の 意味の違い	同じ数ずつ分けると 何組に分けられるか (包含除)															
□こ ○○○○○ □こ ○○○○○ □こ ○○○○○	具体物の操作での違い ↓	1 組 ○○○ 2 組 ○○○ ・・・ □組 ○○○															
	テープ図での違い ↓																
$15\text{ こ} \div 3 = \square\text{ こ}$ $(\square\text{ こ} \times 3 = 15\text{ こ})$	単位名を付けた式での ↓ 違い	$15\text{ こ} \div 3\text{ こ} = \square$ $(3\text{ こ} \times \square = 15\text{ こ})$															
$15 \div 3 = 5$	わり算の共通の式	$15 \div 3 = 5$															
	上巻④ たし算と ひき算の 筆算 同様单元 K5 月③ G5 月④	◎単元のめあて(例) 3 けたの数や4 けたの数の ^{ひつ}たし算ひき算の筆算のしかたを考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント ・ 筆算の計算に入る前に「700+400」のような計算を取り扱い、2年⑬「4 けたの数」までに身に付けたあるものを単位として、その個数を足したり引いたりするという考えを想起して、100を単位にすれば1年の加減で簡単に計算できる(算数のアイデア)ことに気付くようにする。この考えは、整数のたし算ひき算だけでなく、小数のたし算ひき算でも役立つ。 ・ 十の位が0になっている 3桁の数の繰り下がりのあるひき算は、2年の「102－75」のような問題と同様に難しいので、ブロックの操作と補助計算が つながるようにする。															

- ・繰り下がりのある計算は、下記のように補助計算の数字を書くと 間違いが少なくなる。



- ・4桁の数の加減の計算も、3桁の数までの計算を基にして できるようにする。

4 年 上巻③
わり算の
筆算(1)

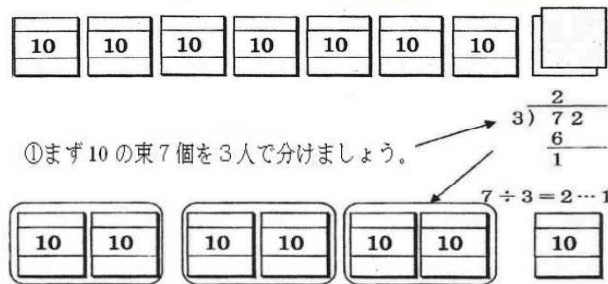
同様单元
K5月③
G4月③
G5月⑤

◎単元のめあて(例)

(2けたの数)÷(1けたの数)や(3けたの数)÷(1けたの数)の 計算のしかたを考えて、
せつ
説明しよう。

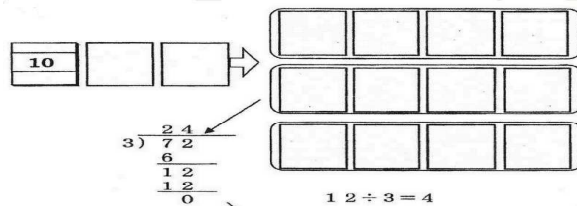
◎授業のポイント

- ・東の大きさを変えれば九九を使って計算できる という考えが、筆算の基になっている。
《 72 ÷ 3 の場合 》図の考えを筆算の形式と関連付けて指導する。



1人分は、10の束2つで、10の束1つ余る。

②余った10の束1つとばら2枚を合わせた12枚を3人で分けてみましょう。



1人分は、10の束2つと4枚で、24枚になる。

- ・上のように 位ごとに割るという考えで、(2位数)÷(1位数)の計算ができるようにする。
- ・(3位数)÷(1位数)の計算も、(2位数)÷(1位数)の計算を基にして できるようにする。

5 年 上巻③
比例

同様单元
K5月③
G4月③

◎単元のめあて(例)

ともなって変わる2つの数量を見つけ、表や式を使って 変化のきまりを考え、
説明しよう。

◎授業のポイント

- ・伴って変わる2つの数量を見付け、表や式を使って 比例の関係や変化のきまりに気付き、問題解決
や その説明に活用できるようにする。

上巻④ 小数の かけ算 同様単元 K5 月④ G6 月⑦	◎単元のめあて(例) 小数をかける 計算の意味や計算のしかたを考えて、説明しよう。 ◎授業のポイント ・ 小数や分数のかけ算わり算の指導・支援に当たっては、児童が主体的に考えられるように 配慮することが大切である。 ・ 小数や分数の計算に当たっても、計算の結果の見積もりにより、見通しを持って計算ができるようにすることが 大切である。 整数の乗法・除法 ↓ 小数へと意味を広げて 5年 乗法 小数のかけ算は、小数にあたる量を求める計算と考える。 除法 小数のわり算は、 等分徐 → 単位量を求める計算へと意味を広げる。 包含徐 → そのままの意味で ↓ 5年と同じ意味で6年の分数へ 6年 分数の乗法 除法 * 小数から分数までの 一貫した考え方に立った指導が、必要となってくる。 基本的には、5年で意味を広げ、6年で同じ方法を用いて 児童が自ら解けるようにしたい。 考え方には、次のように2通りある。 A：単位小数，単位分数の考え方で。 B：整数化して形式的に処理する。 * A，Bいずれにしても，計算の意味を考えて理解できるようにしておくことが 大切である。 《 HP算数教育 情報コーナー参照 》 【 主体的に考える子どもを育てるための小数・分数のかけ算・わり算の指導・支援の方法 】 【 「倍の意味」の捉え直しによる4年「小数を用いた倍」から5年「×小数」「÷小数」への指導 】
6 年 ② 文字と式 同様単元 K4 月② G4 月②	◎単元のめあて(例) x や y などの文字を使って 数量の関係を式に表し，問題を解き方を考えて，説明しよう。 ◎授業のポイント ・ $\square \times 6$ などの式で，$\square$ にいろいろな数を当てはめ，この $\square$ を x とすることで x が変数であるという意識がもてるようにする。 ・ $\square \times 6$ などの式を $x \times 6$ と置き換え，$x \times 6$ などを y とすることで 変数 x と変数に伴って変わる数 y (従属変数) とが意識できるようにする。
③ 分数の かけ算 同様単元 (分数×整数)	◎単元のめあて(例) (分数×整数)や(分数×分数)の 計算のしかたを考えて，説明しよう。 ◎授業のポイント ・ 5年「小数のかけ算わり算」と同様に，一貫した考え方に立った指導が 大切になってくる。

K5 月③ G5 月③ (分数×分数) K5 月④ G6 月④	・ 5 年④「小数のかけ算」(今月号)参照 《 HP算数教育 情報コーナー参照 》 【 主体的に考える子どもを育てるための小数・分数のかけ算・わり算の指導・支援の方法 】 【 「倍の意味」の捉え直しによる 4 年「小数を用いた倍」から 5 年「×小数」「÷小数」への指導 】
---	--

<お知らせと お願い>

「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき、日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、

seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。

(スパム対策です。お手数ですが _atmark_ を, @に直して下さい。)